平成29年度播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議　議事概要

日　時	平成30年3月27日（火）13：30～15：10
場　所	播磨町役場第1庁舎3階BC会議室
出席者	【播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員】 松井　昭雄（商工会） 大亀　亨　（商店主） 四海　達也（兵庫県東播磨県民局　局長） 有馬　誠司（加古川公共職業安定所　次長） 笹田　哲男（兵庫大学短期大学部　保育科教授） 大塚　毅彦（明石工業高等専門学校　建築学科教授） 西川　健一（みなと銀行　本荘支店　支店長） 田畑　道昭（神戸新聞社　東播支社　支社長） 松下　信広（労働者福祉協議会　会長） 荒谷　ふみ子（住民代表） 諸鹿　良治　（住民代表） 【事務局】 清水　ひろ子（町長） 三村　隆史（副町長） 横田　一　（教育長） 岡本　浩一（理事） 浅原　俊也（理事） 山口　泰弘（理事） 赤田　清純（理事） 尾﨑　直美（理事） 前田　忠男（会計管理者） 松本　弘毅（企画グループ統括） 岡本　光嗣（企画グループ主査） 大友　敬　（企画グループ主事）
欠席者	【播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員】 鶴井　昌徹（播磨町新島連絡協議会　会長）

◆　開会

事務局）　ご案内の時間がまいりましたので、只今より「平成 29 年度播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」を開催いたします。
　まず、播磨町長　清水ひろ子より、ごあいさつ申しあげます。

（町長挨拶）

（会議資料確認）
（委員及び事務局紹介）
（会長・副会長選出）

◆　協議事項

会長）　それでは、会議の次第に沿って審議を進めていきます。まず、協議事項（１）「播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略の主要施策の取組状況」について、事務局より説明をお願いします。

事務局）　（主要施策の取組状況の説明）

（播磨町新ＰＲ映像「今里傳兵衛物語」上映）

会長）　続きまして、協議事項（２）「播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略のＫＰＩの進捗状況」について、事務局より説明をお願いします。

事務局）　（ＫＰＩの進捗状況の説明）

会長）　それでは、主要施策の取組状況及びＫＰＩの進捗状況について、意見・質問はございませんか。

委員）　事業番号２４「開発特産品の認定」についてですが、菓子セット「オポナカ」については、様々なお店の商品を詰合せにして売り出すという発想が評価できます。また、兵庫南農業協同組合、播磨町漁業協同組合、播磨町商工会、播磨町の４者による連携協定についても、コラボレーション方式で産業振興を図る新しい取組である点を評価したいと思います。

事業番号２８「同窓会支援事業」も、評価できると思います。周辺自治体も人口が減少している中で、播磨町の生産年齢人口を増やすためには、Ｕターン人口の増加がポイントになってくると思います。そのためには、子育て支援や就労支援も重要だと思います。Ｕターン人口は増加しているのでしょうか。また、今後増加の可能性はあるのでしょうか。加えて、転入・転出の理由を調査されているなら、教えていただきたいと思います。

事務局）　平成 28 年度から本格的な「地方創生」の取組が始まっており、今年度は２ヵ年目です。これらの施策の推進により急激に人口が増加するものではなく、少しずつの積み重ねが大切だと思っています。

Ｕターン人口については、算出方法の問題もありまして、数の把握はしておりません。

「同窓会支援事業」は、昨年度より、ふるさと愛の醸成に寄与することを目的として開始し、昨年度は１件、今年度は２件の同窓会開催周知に関する情報支援を行いました。播磨町公式ホームページでは、当日の様子も掲載しております。今のところは、ゼロ予算で事業を進めているところです。

町長）　ここ数年の転入理由として数多く挙げられているのは、「子育て支援の充実」です。１０年前、播磨町の合計特殊出生率は、県下で最低ラインでした。その後、きめ細かい支援メニューを揃え子育て家庭に提供したところ、出生率は１０年で１．６６に上昇しました。これ以上に出生率を上げるためには、どうすればよいのか。労働者福祉協議会との懇談会では、「播磨町の施策は評価されていて移住したいが、土地がない、地価が高い」との意見が複数ありました。内陸部がわずか６ｋ㎡しかない、限られた町域の中で、人口増加のためには、住宅をどのように提供するか、宅地をどう開発していくかが大きなウエイトを占めると感じました。人口密度の問題もありますし、大幅な増加は難しいかもしれませんが、検討していく必要があると考えています。「ふるさと回帰」をどう図るかも大切です。教育現場からは、「卒業生が保護者として播磨町に帰ってくることが非常に多い」と聞いています。それは、播磨町が、住みやすく、故郷として良い印象を持たれているからだと思います。平成 29 年度のテーマとして「記憶に残るまち播磨町」を掲げましたが、子どもたちに町内でいろんな原体験を重ねてもらい、その後、成長して一旦町外で暮らしても、やがてまた播磨町に戻って来てもらいたいという願いが強くあったからです。町制施行５５周年記念事業の一環として、大型帆船「日本丸」を招聘しましたが、このこともそのような思いからの行事でした。

会長）　東部地区では宅地開発が進んでいるという話を聞きましたが。

町長）　都市基盤の整備を進めれば、民間事業者からの投資により宅地開発が進むと思っていましたので、町道「浜幹線道路」を整備しました。ここ数年、周辺ではかなりの宅地が開発され人口も増えてきています。東部地区では、幼稚園や小学校に通う子どもの数も増加しています。

理事）　総合戦略策定時に実施したアンケート調査の結果によりますと、転入時に播磨町を選択したきっかけとしては、「通勤・通学に便利であること」「親や子ども世帯と同居・近居するため」「交通の利便性が良いこと」「住まいの環境が良いこと」が上位でした。転出については、結婚後播磨町に住まなかった理由として１番多かったのが「町内や町周辺に就職先が無かったため」であり、転出先は近隣自治体が多くなっています。

委員）　住民アンケートの回答は、実際に播磨町に住んでいた方の意見であり、重要な資料ですので、今後も継続的に町政の参考にしていただきたいと思います。
播磨町には、強みもたくさんあります。その中でも、事業番号２４「開発特産品の認定」では、菓子セット「オポナカ」や商工会推奨品を開発するなど、商工会との連携が強くみられる点に目がひかれます。この強みを活かすという意味では、住民に周知させるよう、広報展開の強化を課題にされてはと思います。また事業番号２９「土山駅南交流スペース活用事業」では、通勤通学でＪＲ土山駅をもっと利用してもらえるように駅前の開発に力を入れ、土山駅南交流スペース(愛称：きっずなホール)も更に積極的に活用してもらいたいと思います。この点と関連することですが、事業番号１８「コミュニティバス運行事業」においては、実証運行事業者の決定に至らなかったとのことですが、今後の展開が気になるところです。最後に、「ＫＰＩ進捗状況」中の目標指数「大学・企業との共同研究数」に関連して、「兵庫大学との包括連携協定締結」の説明がありましたが、地元の大学生は貴重な人材資源です。兵庫大学では、特に保育士資格や看護師免許等の取得を目指す学生が多いとのことなので、児童福祉等の分野でうまく連携ができればと思います。

町長）　兵庫大学とは、これまでも大中遺跡まつり等の実行委員や審議会の委員等について学生・教員の協力を頂くという繋がりがありましたが、これまで以上に連携がとれたらと思います。免許・資格取得者に対しては、例えば播磨町でも幼稚園教諭を採用していますので、地元に目を向けてもらえるように努めたいと思います。
コミュニティバス運行事業者の選定については、これまで４回公募を行い、その

都度応募条件を緩和するなど、試行錯誤しながら取組を進めております。しかしこの地域においては、対象事業者が少数で、運転者自体も不足しており、また、地域・社会貢献の面から、事業者の協力を得ることも必要ではないかと考えています。今後は、コミュニティバス運行に限らず他の対応策も模索しながら、交通弱者への支援を考えたいと思っています。

土山駅南交流スペース「きっずなホール」は、連日幅広い世代の多くの方にご利用いただいています。このようなフリースペースが町内にあることによって、いろんな世代の居場所づくりに役立っていると思いますので、これまで以上に利用してもらえるよう諸団体や企業にお声掛けし、活用を図っていきたいと思います。

なお、兵庫南農業協同組合、播磨町漁業協同組合、播磨町商工会との連携協定についてですが、商品開発や販路面等での組合間の協力が進むことにより、生産から販売までの効率的な流れを作ることができればと考えています。播磨町は消費がかなりある町ですので、今後どう活用できるか内部においても検討し、各関係団体等からのご指導もいただきたいと思っております。

会長）　大学と地域社会との連携についてですが、大学は、地域貢献を通じて、地域から学んだことを教育研究に反映させることが肝要であり、この点に、地域貢献型大学の存在価値があると考えています。

委員）　「ＰＲ戦略」についてお伺いします。事業番号３４「播磨町ＰＲポスター制作」についてですが、「JR 西日本での外部広告掲載」の区域を教えて下さい。

事務局）　町内は役場をはじめ公共施設に掲示しておりますが、ポスターは播磨町の良さを町内外に発信することを目的に作成しましたので、大阪府内から加古川市の区間、JR の一部の駅に、外部広告として掲出しております。

委員）　「播磨」というと「播磨地域」を連想してしまいます。播磨町は、県下で最小の面積で、印象も薄くなりがちであり、ＰＲ戦略も難しいと思います。事業番号２４「開発特産品の認定」では特産品も考えられていますが、他市町との差別化を図るため、どのように播磨町の良さをＰＲしていくのかを検討するべきです。旧来的な産品にとらわれず、新しいものを作ってもいいと思います。「ＫＰＩ進捗状況」基本目標４の目標指標「人口の社会増」における定住促進に関しては、新島企業に通勤する町外在住者を対象にＰＲしてはどうでしょうか。また播磨町は子育て支援に力を入れておられるので、２０～４０代の人たちに向けての、パッと目に付く簡単明瞭な訴え方も必要かと思います。

Ｕターンを対象としたものでは、兵庫県や明石市では民間の企業説明会に参加さ

れているようですが、播磨町も参加されていますか。

町長）　特産品の開発・広報は、商工会主体で実施しておりますので、ご意見を伝えたいと思います。

ＰＲポスターは平成27年度に制作したものが第１弾、今回制作したものが第２弾となります。第１弾では播磨町を外から見たときに良いイメージを持ってもらえるよう、大中遺跡と緑豊かな風景、そしてきれいな海をテーマにしました。今回の第２弾は、播磨町は小さい町だが、毎日いろんな方の笑顔があふれる町であり、それを支えている人が多くいるという、人と人の繋がりをＰＲするものであり、従って「人」をテーマにしたものとなっています。「まちが　ひとが　ふるさとが　守ってあげる　その笑顔」というキャッチコピーについては、まち(＝行政)、ひと(＝ボランティアや地域の方）が、ふるさとに在る「輝く笑顔」を守るよ、そんなまちがここにあるよ、という意味を込めています。都会でも田舎でもないが、交通の利便性が良く住みやすいまち、いつか帰ってきたいまち、ということが表現できればと思っています。人口の右肩上がりを目指すよりは、まちづくりにおいて質の良さを目指すべきであり、安心して居心地のよい場所をまちのなかに多く作っていきたいと思っています。戦略的には、「神戸」や「姫路」のような都市を目指すのではなく、「播磨町らしさ」を追求していきたいと考えています。

理事）　新島企業に勤めている方の８割が町外在住者ということで、ＰＲ冊子はその方々も対象に作成し配布しました。新島内で操業されている企業に対しては、地元採用を行っていないので、地元採用の検討を依頼したりしました。町職員募集の際には、地元の方に向けての広報として、案内を自治会で回覧してもらったり、近隣大学に送付したりしています。民間の就職説明会等には、採用予定人数が少ないこともあり、参加していません。

町長）　新島在勤者を町内に引き込むことができれば一気に人口増になる訳ですが、地元雇用枠の増加や住宅問題の解決等を検討する必要があり、受け皿を整備することが課題になっています。

委員）　先般開催された播磨町労働者福祉協議会と町長との懇談会では、播磨町は子育て施策が充実しており、住環境もよくて働きやすいが、地価が高いので、企業で働く若者にとって住居を構えるのは難しいという、委員からの声が上がりました。ただ町長の説明では、事業番号３０「空き家活用支援事業」にありますように、空き家等の活用を促進しているとのことで、協議会委員の一定の理解は得ているかと思います。浜幹線道路も整備され、特に通学時における生徒児童への交通指

導については、ＰＴＡやボランティア、先生方のおかげで、行き届いた指導が行われているので、随分と通勤しやすくなりました。浜国道や新島へ続く道路の整備も、引き続き進めていただきたいと思います。

委員）　「ＫＰＩ進捗状況」基本目標４の目標指標「人口の社会増」、基本目標１における取組施策・目標指標中の「２０～３０歳の女性人口」についてですが、前提として「子どもが増えないと駄目だ」「人口が減ると悪い方向に向かう」という意識を捨てなければいけません。「ＫＰＩ進捗状況」からも分かるように、２０～３９歳の女性人口は毎年約１００人ずつ減っており、将来人口が減少することは確実です。先ほど町長がおっしゃったように、だからこそ「まちの質」を求めていかなければならない、ということであり、町長の意見に同感です。播磨町が他市町と合併しないのは、財政的に豊かな町であること、「住みやすい」など住民満足度が高いことが、その理由になっていると思います。とは言いながら、広域行政のメリットや効果もあるので、播磨町の総合戦略の内容によっては、県民局としても協力したいと思います。

会長）　予定の時間もまいりましたので、本日の議事を終えたいと思います。今後もより一層の総合戦略の推進に取り組んでいただくことをお願いいたします。

(町長あいさつ)

◆閉会